

平成 26 年度 事業報告書

一般財団法人日本自動車研究所

目 次

1. 法人の概況.....	1
1.1 設立年月日	1
1.2 定款に定める目的	1
1.3 定款に定める事業	1
1.4 賛助会員に関する事項.....	1
1.5 主たる事務所、従たる事務所の状況	1
1.6 評議員、役員等に関する事項	2
1.7 職員等に関する事項.....	2
1.8 評議員会、理事会に関する事項.....	2
2. 事業の状況.....	2
2.1 実施事業（公益的な事業）	2
2.1.1 基礎研究（自主的な研究）	3
2.1.2 総合研究（官公庁等からの受託事業・補助事業）	4
2.2 その他事業（公益的な事業を除く全ての事業）	5
2.2.1 研究・試験事業	5
2.2.2 施設・設備の運用事業	7
2.2.3 認証事業（審査および登録事業）	7
2.2.4 JNX 事業	7
2.3 法人運営	7
2.4 重要な契約等に関する事項.....	8
2.5 正味財産増減の状況および財産の増減の推移.....	8

1. 法人の概況

1.1 設立年月日

昭和 36（1961）年 4 月 7 日

1.2 定款に定める目的

この法人は、自動車に関する研究を通じて、自動車及び関連分野の総合的、長期的技術の向上を図るとともに、エネルギー資源の適正な利用の増進に資し、もって産業の健全な発展と国民生活の向上に貢献することを目的とする。

1.3 定款に定める事業

この法人は、定款に定める目的を達成するため、自動車および関連分野に関する次の事業を行う。

- (1) 基礎的な調査、研究及び技術開発
 - (2) 環境、エネルギー、安全及び情報・電子技術の調査、研究及び技術開発
 - (3) 標準化の推進及び基準の設定への協力
 - (4) 試験及び評価
 - (5) 技術協力、技術指導及び人材育成
 - (6) 情報の収集及び成果の普及・啓発
 - (7) 所要施設・設備の運用
 - (8) 国内外の規格に基づくマネジメントシステムの審査及び登録
 - (9) 電子商取引のための共通のネットワークシステムの提供
 - (10) 前各号に掲げるもののほか、この法人の目的を達成するために必要な事業
- これらの事業は、国内又は海外において行うものとする。

1.4 賛助会員に関する事項

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

区 分	賛助会員数	平成 25 年度比
財団運営維持	120	△2
一 般	94	+8
団 体	12	±0
合 計	226	+6

1.5 主たる事務所、従たる事務所の状況

主たる事務所：東京都港区芝大門一丁目 1 番 30 号

従たる事務所：茨城県つくば市大字苧間 2530 番地

茨城県東茨城郡城里町大字小坂字高辺多 1328 番 23

1.6 評議員、役員等に関する事項

平成 26 年度期末における評議員、役員等は、附属明細書「1.1 評議員名簿」、「1.2 役員等名簿」、「1.3 顧問名簿」に示すとおりである。

1.7 職員等に関する事項

平成 26 年度期末における職員数は 349 名（平成 25 年度末比 +8 名）である。また、平成 26 年度の組織体制は、附属明細書「1.4 組織図」に示すとおりである。

1.8 評議員会、理事会に関する事項

平成 26 年度に開催した評議員会、理事会およびその議事は、附属明細書「1.5 評議員会、理事会の議事一覧」に示すとおりである。

2. 事業の状況

一般財団法人日本自動車研究所（以下、JARI）の事業は、「実施事業」と「その他事業」で構成される。「実施事業」では自主的な研究や官公庁から委託等を受けた事業を実施し、その成果を広く社会に発信して公共の利益に資する。「その他事業」では、産業界のニーズに対応した研究試験事業を実施して、実施事業を安定的に持続していくための経営基盤を維持する。

平成 26 年度は、実施事業として自動車関連技術に関する標準化・基準化に引き続き貢献したほか、自動運転関連分野や内燃機関の排出ガス処理技術の分野では、産学連携体制を主導して研究開発を開始した。また、その他事業については産業界との情報交換を一層強化し、蓄電池の安全性試験や、予防安全装置の評価試験等の新しいニーズに対応できる体制を整えて事業を推進した。

平成 26 年度に実施した研究事業は、附属明細書「2.1 平成 26 年度研究事業一覧」に示すとおりである。また、学会等における研究成果の発表実績は、附属明細書「2.2 平成 26 年度所外発表論文等実績一覧」に、学会活動に関する表彰の受賞者は附属明細書「2.3 平成 26 年度学会表彰の受賞者一覧」に示すとおりである。

2.1 実施事業（公益的な事業）

公益的な事業である「実施事業」は、自主財源を投資して行う「基礎研究」と、官公庁等からの受託事業や補助事業として行う「総合研究」に分類される。

基礎研究（自主的な研究）については、研究基盤の維持と発展を目的として取り組んだ。総合研究（官公庁の受託事業・補助事業）については、公募情報等を注視して適切な事業企画を提案・応募し、研究、試験、調査活動に積極的に参画した。なお、実施事業の研究成果は、学会等への発表やホームページ、セミナー等を通じて広く一般に公開した。各分野における代表的な事例を以下に示す。

2.1.1 基礎研究（自主的な研究）

(1) 環境・エネルギー分野

燃料電池自動車について、安全性評価能力の向上を目的として、火災シミュレーションソフトを利用した火災試験の数値解析に取り組み、実際の火災試験の実施前に火炎の流れの状態を把握することが可能となった。また、燃料電池触媒の劣化過程を実環境下で透過電子顕微鏡観察する技術を開発し、空気の湿度に依存する電極触媒（Pt/C）の構造変化などを明らかにした。

内燃機関自動車については、カタログ燃費と実走行燃費の乖離要因を明確にするため、実路走行時における燃費評価が可能な計測および解析手法を確立し、燃費評価方法に関する知見を取得するとともに、使用過程触媒の劣化性能予測モデルの基礎検討を行った。

また、新たな取り組みとして、自動車騒音低減のために、タイヤと路面間の騒音発生メカニズム解明に取り組んだ。

(2) 安全分野

予防安全に関しては、JARI が独自に開発した JARI-ARV（拡張現実実験車）を用いて、被験者評価によるデータを取得し、市街地で歩行者が急に方向転換して横断する場面の事故リスクを推定した。また、運転者の機能疾患が事故発生におよぼす影響の一つとして、緑内障における視野欠損のタイプと歩行者見落とし場面との関係をドライブシミュレータを用いた評価で把握した。

衝突安全に関しては、事故による死因の中で最も多い頭部傷害に着目し、脳および脳幹の傷害を評価するためのシミュレーションの開発を通して、文献の生体実験データとの相関を確認した。また、頸部傷害が女性に多く発生することについて、スウェーデンのチャルマース工科大学など国内外の研究機関と連携して着座姿勢の調査を行い、男女脊椎の湾曲状態の違いに起因していることを把握した。すでに製品化されている頭部保護帽については、スポーツ分野への応用の一つとして柔道用保護帽を開発した。

(3) IT・エレクトロニクス分野

2020年東京オリンピックを一里塚として、高度運転支援や自動運転、ビッグデータの活用等が自動車の新しい価値として注目されている。こうした新しい動きを捉え、LTE（第4世代通信規格）やスマートフォンといったIT技術、CE（Consumer Electronics）技術や製品の発展動向など、電気・通信・サービス産業など多岐にわたる分野との連携によるITSの活用や関係者間での共通意識の醸成、ニーズ等の調査活動、自動車分野への影響・課題の抽出に取り組んだ。

2.1.2 総合研究（官公庁等からの受託事業・補助事業）

(1) 環境・エネルギー分野

車載蓄電池並びに電動車両等に関する安全性評価試験法や性能評価試験法の開発に資するデータを収集し、それらに基づく国際標準化活動を推進した。燃料電池自動車の普及に関しては、安全な事故後処理および廃車処理に資するデータの取得、自動車用圧縮水素容器に関する国内基準の適正化議論や国際基準調和活動などを推進した。燃料電池に関しては、膜/電極接合体（MEA）の性能、耐久性の評価法を策定するとともに新規材料の評価を実施した。また、水素燃料中の不純物が燃料電池の発電性能に及ぼす影響を把握し、燃料電池自動車用水素の品質規格の議論に必要なデータを蓄積した。

内燃機関自動車については、最新の排出ガス規制に適合したディーゼル重量車を対象とした使用過程車の排出ガス排出実態を調査し、排出ガス後処理装置の性能変化に関する知見を得た。また、乗用車の排出ガス・燃費試験法、エアコン燃費試験法等の検討成果を国内や国連での標準化活動に活用し、国際基準調和会議における日本提案に貢献した。

自動車騒音については、タイヤ騒音規制の国内導入検討のため、実態調査を進めた。

(2) 安全分野

安全アセスメント事業において、予防安全装置の評価が新たに導入された。平成26年度は、新型車に対する対車両AEBS（衝突被害軽減ブレーキ）ならびにLDW（車線逸脱警報）の評価を開始するとともに、平成27年度から導入される車両周辺視界情報提供装置の評価について、事故発生頻度の高い車両後退時におけるモニター機能の視野評価法を策定した。また、今後の運転支援装置の高度化に備えて、システムの開発過程で必要となる運転者の回避行動のモデル化に着手し、歩行者飛び出し時の回避行動の分析を行った。あわせて、運転支援装置の効果評価をコンピュータ上で実行可能にすることを目指して、既存のシミュレーションプログラムを調査した。

衝突安全分野では、事故データから事故形態別の死者数の発生頻度や死亡率を分析して、交通事故死者数の低減を検討する上で有効な事故形態を抽出するとともに、すでに実施されている対策の効果評価や新たに適用する対策の効果予測を行った。また、救急搬送に関するデータを分析し、事故自動通報システムの採用による通報時間の短縮効果を試算した。

(3) IT・エレクトロニクス分野

政府の成長戦略に沿って、平成26年度から自動走行技術の研究・実証事業が大規模展開された。JARIは、企業や大学との共同研究体制を構築して、先読み運転支援技術、先端的センサ、通信や制御のセキュリティ・フェイルセーフ技術、事故低減効

果シミュレーション技術等の研究課題に参画し、研究・実証事業 3 件と調査事業 3 件を実施した。

また、標準化関連事業として、自動車や IT・エレクトロニクス分野における我が国の高い技術力を海外市場に展開するための基盤整備を目指し、国際標準原案の開発や提案活動に貢献した。

(4) 生活支援ロボット分野

自動車分野で蓄積した安全性評価の知見を活用して、ロボット技術を応用した介護機器の実用化促進のための安全性評価手法の標準化に関する研究を実施した。メーカーの試作機を導入した介護現場の調査とそれに先立つ安全性評価を実施することで、介護ロボットの安全性評価手法を開発した。加えて、工学的な評価だけでなく、介護現場のニーズを反映した新しい評価法などについて、実用化普及と事業化に向けた研究が必要であることを見出した。

2.2 その他事業（公益的な事業を除く全ての事業）

「その他事業」は、実施事業（公益的な事業）を除く全ての事業である。実施事業で蓄積してきた技術・知見を活用して、業界団体や一般企業の期待に応える研究事業、試験事業を実施し、JARI の安定経営に必要な収益の確保に努めた。

企業向けの研究・試験設備見学会の開催や、各種展示会への出展などを通じて、JARI の研究能力、試験技術、試験設備の情報を幅広く紹介するとともにニーズを把握し、設備・機器の導入や受託受入れ体制の整備に反映した。

2.2.1 研究・試験事業

(1) 環境・エネルギー分野

水素・燃料電池自動車の安全評価試験設備（Hy-SEF）において、高压容器や容器附属品の水素充填試験や破裂試験などの安全性評価試験、水素燃料電池自動車やリチウムイオン電池を搭載する電動車両の各種火災試験を実施し、安全な電動車両の開発に資する研究に取り組んだ。また、ECE R100-02（蓄電池の安全基準）に関連したリチウムイオン電池等の耐火試験等を実施する準備を進めた。

大型車・小型車・二輪車、ハイブリット車・電気自動車などの次世代自動車、および自動車用や建設機械用のエンジンシステム等の排出ガスや燃費等を評価した。さらに、ISO/IEC 17025 試験所認定によるスイス環境局の建設機械用エンジンの粒子数規制に対する試験機関として、認可に必要な試験データを提供した。

自動車の更なる燃費の向上や排出ガスの低減に向けて、内燃機関の共通課題研究に取り組むために「自動車用内燃機関技術研究組合」に参画し、排出ガス後処理技術に関する研究を実施した。また、海外車両のベンチマーク試験をコンソーシアム形式で実施し、エネルギーフロー評価などを行った。

自動車排出ガスが大気環境へ及ぼす影響を明らかにするため、PM2.5 に関する二次粒子生成メカニズムの解明やシミュレーション精度の向上を進めた。

(2) 安全分野

予防安全装置の研究・開発に係わる試験ニーズが高まっており、模擬市街路やドライブシミュレータを用いた評価試験を数多く実施した。また、大型車の車線逸脱警報装置の評価について、城里テストセンターの試験路に試験可能なエリアを設けて実施した。

衝突安全については、従来の傷害評価が男性を対象としていたのに対し、女性を対象としたコンピュータシミュレーションによる傷害予測手法の開発を進めた。衝突試験については、業務分析による受け入れ態勢の強化を図り、試験実施件数を前年比で15%増加させた。

(3) IT・エレクトロニクス分野

平成23年に自動車の機能安全（ISO 26262）が国際規格化されたことを受けて、規格の解釈に関する関連企業28社との共同研究活動や、技術者教育・コンサルティング事業に取り組んできた。共同研究については、平成26年度までに当初目標の成果を達成した。また、教育・コンサルティング事業については、これまでの取組みやセミナー等を通じた広報活動によってJARIの認知度が向上し、引き合い件数の増加や事業の拡大に繋がった。

また、エネルギーITS事業で培った自動走行技術を高速道路のトンネル照明清掃車両等に応用し実用化する事業に継続して取り組むとともに、新たに自動走行関連の個別企業ニーズにも対応し、自動走行技術の社会受容性確立に貢献した。

(4) 生活支援ロボット分野

将来の本格的なロボット安全評価コンサルタント事業、および安全アセスメント事業を目指して、生活支援ロボット安全検証センターを利用した受託試験を開始した。受託試験を通じて、目的や機能が異なるロボット関連製品を評価するためには、複数の試験規格の組み合わせや人間工学試験など、多様な安全評価の提供が求められること、そしてJARIがそのニーズに応えられることが確認できた。

(5) その他の活動

平成26年12月に、第3回アジア自動車研究所サミットをタイ側事務局と連携して開催した。8カ国の10研究所が参加し、第2回サミットの成果を受けて設定した4つのセッション（共同研究、燃費／排気、安全、電気自動車）において専門家間で活発な意見交換が行われた結果、各機関の相互理解が深まるとともに、継続的な意見交換が必要であることが確認された。

2.2.2 施設・設備の運用事業

城里テストセンターでは、予防安全技術関連の受託試験や貸出ニーズが増加し、大型車、普通車のLDWS試験用の白線を新規に設置して営業活動を展開した結果、利用が拡大し、新規顧客も開拓できた。さらに、次期以降に想定される被害軽減ブレーキ等の試験ニーズ拡大に確実に対応するため、新試験路の建設計画を策定した。

また、新規技術の市場への普及促進を目的とした大型車や普通車の試乗会・研修会などの貸出実績を拡大して積極的な情報発信に貢献するとともに、休日を有効活用してテストコースの稼働率の向上を図った。

テストコースの貸出し利用状況は、附属明細書「3.1 平成26年度テストコース外部利用者使用状況」に示すとおりである。

2.2.3 認証事業（審査および登録事業）

平成26年度は普通充電器の製品認証制度が変更され、経済産業省は、平成27年度の普通充電器の設置に係る補助金に対して、製品認証を交付要件とした。その結果、平成26年度末までに11件の新規認証申込があった。

また、マネジメントシステム認証では、道路交通安全で2件、エネルギーで1件の認証が追加登録され、着実に事業を拡大した。さらに、平成27年度の環境マネジメントおよび品質マネジメントの国際規格改正に向けて、内部規定類の変更検討等の準備を開始したと同時に、セミナーやホームページを通して認証登録組織への情報発信を実施した。

2.2.4 JNX 事業

自動車業界の部品の受発注において、主として中小企業の電子商取引（EDI）を実現するため平成24年2月にサービスを開始した「JNX 共通 EDI サービス」について、平成26年度も普及促進や機能強化に重点的に取り組んだ。また、ネットワークセキュリティ強化等のJNXの基盤強化の取り組みを継続的に実施した。

JNXセンターで平成18年11月に認証を取得した情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）において、ISOの規格が改訂されたことに伴い、新規規格への移行対応を実施し、平成26年11月より新規規格での運用を開始した。

2.3 法人運営

「非営利性が徹底された一般財団法人」として、法令および定款を遵守した運営を行った。また、経営基盤の安定化に向けては、全所横断的なタスクフォースを中心とした営業拡大活動とコスト削減活動、固定資産取得に対する投資回収性の精査の徹底、部署単位での業務の効率化に向けた取り組みを推進した。さらに、将来の経営負担を軽減するために、遊休資産の除却を積極的に行ったほか、一部遊休地の売却に向けた準備を進めた。

広報活動においては、ホームページ、刊行物、研究・事業報告会の開催などにより事業成果を積極的に発信した。平成 26 年度に刊行した技術刊行物は附属明細書「4.1 平成 26 年度技術刊行物一覧」に示すとおりである。また、平成 26 年度の蔵書、資料保有状況は附属明細書「4.2 平成 26 年度蔵書、資料保有状況」に示すとおりである。

2.4 重要な契約等に関する事項

平成 26 年度の重要な委託契約等（3 億円超）および重要な設備投資等（5,000 万円超）に関する事項は、以下のとおりである。

(1) 重要な委託契約等

- ・画像等情報呈示装置による視界情報の呈示方法および視界への影響研究 ほか
(委託元：日本自動車工業会)
- ・次世代高度運転支援システム研究開発・実証プロジェクト
(委託元：経済産業省)
- ・戦略的イノベーション創造プログラム（自動走行システム）「走行映像データベース」の構築技術の開発および実証
(委託元：経済産業省)

(2) 重要な設備投資等

- ・エンジンテストベンチシステム

なお、上記の重要な設備投資を含めた、平成 26 年度の主要な設備導入および工事等は、附属明細書「4.3 平成 26 年度主要な研究設備、機器の導入、更新一覧」および「4.4 平成 26 年度主要な工事等整備一覧」に示すとおりである。

(3) 重要な資産の除却

- ・ 7 号宿舍

2.5 正味財産増減の状況および財産の増減の推移

平成 26 年度の当期経常増減額および正味財産期末残高は下記のとおりである。

(単位：百万円)

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
当期経常増減額	△614	△39	△363	△316
正味財産期末残高	19,420	19,453	19,067	18,672

附属明細書

附属明細書 目次

1.1	評議員名簿	11
1.2	役員等名簿	12
1.3	顧問名簿	13
1.4	組織図	14
1.5	評議員会、理事会の議事一覧	15
2.1	平成 26 年度研究事業一覧	16
2.2	平成 26 年度所外発表論文等一覧	18
2.3	平成 26 年度 学会表彰の受賞者一覧	26
3.1	平成 26 年度テストコース外部利用者使用状況	27
4.1	平成 26 年度技術刊行物一覧	28
4.2	平成 26 年度蔵書、資料保有状況	28
4.3	平成 26 年度主要な研究設備、機器の導入、更新一覧	29
4.4	平成 26 年度主要な工事等整備一覧	29

1.1 評議員名簿

評議員（16人）

（平成27年3月31日現在）

評議員会 会長	岡 本 一 雄	(公社)自動車技術会 元会長 (日野自動車(株) 相談役)
評議員	伊 勢 清 貴	トヨタ自動車(株) 取締役 専務役員
〃	久 村 春 芳	日産自動車(株) フェロー
〃	山 本 卓 志	本田技研工業(株) 取締役 専務執行役員
〃	小 泉 年 永	(株)リケン 特別顧問
〃	信 元 久 隆	曙ブレーキ工業(株) 代表取締役会長兼社長
〃	岩 波 利 光	日本電気(株) 特別顧問
〃	大 沼 邦 彦	日立オートモティブシステムズ(株) 取締役会長兼CEO
〃	小 川 王 幸	(株)日本自動車部品総合研究所 顧問
〃	森 安 俊 紀	(株)東芝 元顧問
〃	松 村 幾 敏	J X日鉱日石エネルギー(株) 元顧問
〃	渡 邊 穰	中部電力(株) 取締役専務執行役員 お客さま本部長
〃	石 谷 久	東京大学 名誉教授
〃	桑 原 雅 夫	東北大学大学院 教授
〃	垂 水 尚 志	(公財)鉄道総合技術研究所 顧問
〃	大 聖 泰 弘	早稲田大学 教授

1.2 役員等名簿

理事：15人、監事：2人、会計監査人：1名

(平成27年3月31日現在)

代表理事 理事長	池 史 彦	(一社)日本自動車工業会 会長 (本田技研工業(株) 代表取締役会長)
副理事長	永 塚 誠 一	(一社)日本自動車工業会 副会長・専務理事
代表理事 研究所長	永 井 正 夫	
代表理事 専務理事	半 田 茂	
業務執行理事 常務理事	黒 田 哲 平	
業務執行理事	田 中 利 明	
業務執行理事	竹 内 俊 作	
業務執行理事	堀 内 守 司	
理 事	天 野 肇	ITS Japan 専務理事
理 事	鎌 田 実	東京大学 教授
理 事	高 橋 武 秀	(一社)日本自動車部品工業会 副会長 専務理事
理 事	平 井 敏 文	(一社)日本自動車工業会 前企画部会副部長 (一社)日本自動車販売協会連合会 副会長・専務理事
理 事	堀 洋 一	東京大学大学院 教授
理 事	松 井 直 人	(一社)日本自動車工業会 企画部会部長 (本田技研工業(株) 執行役員)
理 事	吉 田 正 寛	J X日鉱日石リサーチ(株) 副社長執行役員
常勤監事	緒 方 廣 己	
監 事	柄 尾 信 義	マツダ(株) 常勤監査役
会計監査人	優 成 監 査 法 人	

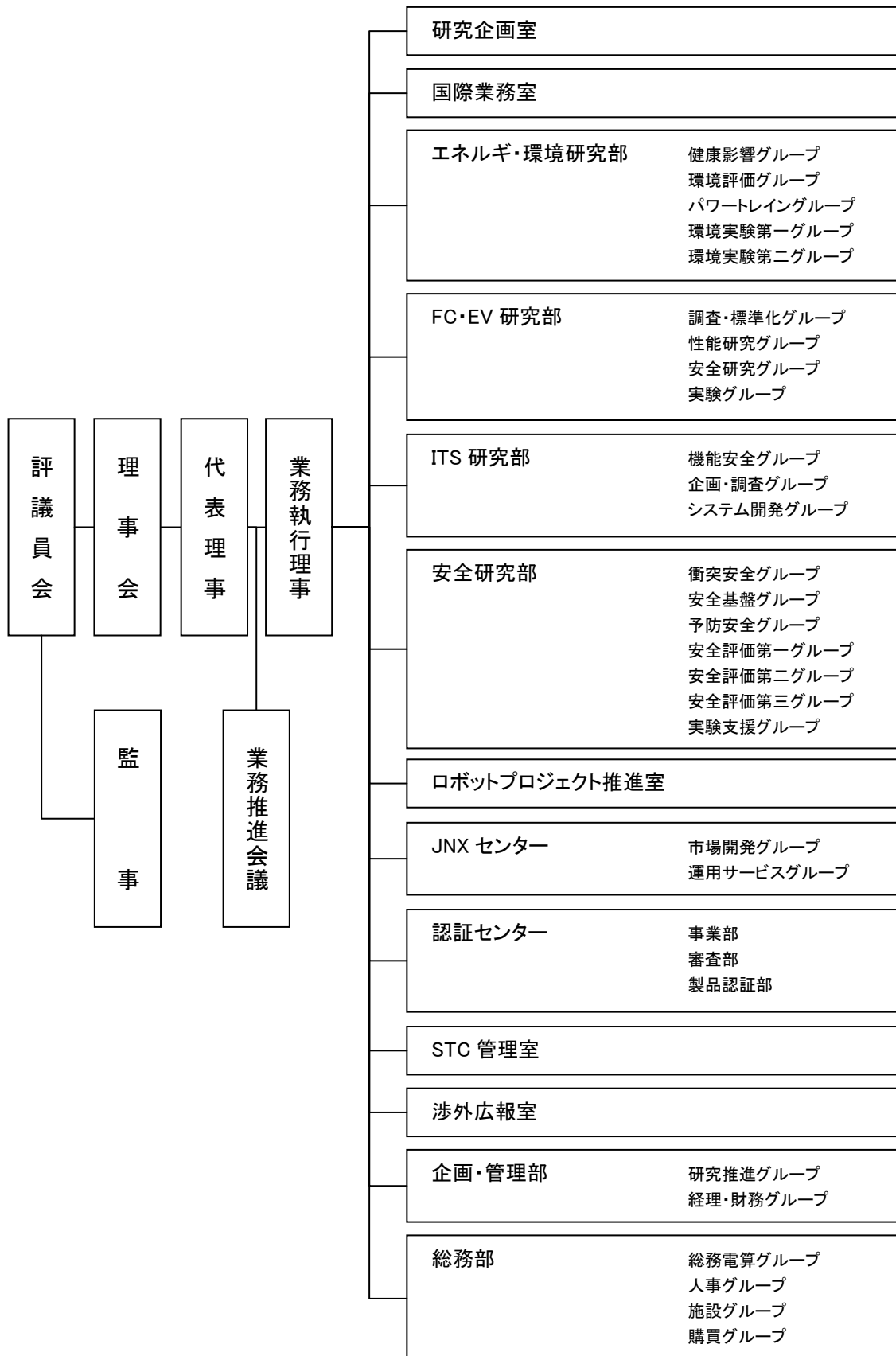
1.3 顧問名簿

顧問：12人

(平成27年3月31日現在)

井口雅一	(一財)日本自動車研究所 元副理事長・研究所長
岩崎正視	トヨタ自動車(株) 顧問
奥田碩	トヨタ自動車(株) 相談役
小枝至	日産自動車(株) 相談役
小林敏雄	(一財)日本自動車研究所 前代表理事 研究所長
志賀俊之	日産自動車(株) 代表取締役 副会長
鈴木孝男	三菱ふそうトラック・バス株式会社 取締役会長
張富士夫	トヨタ自動車(株) 名誉会長
富永孝雄	(一社)日本自動車工業会 顧問
豊田章男	トヨタ自動車(株) 代表取締役社長
豊田章一郎	トヨタ自動車(株) 名誉会長
名尾良泰	(一社)日本自動車工業会 顧問

1.4 組織図



1.5 評議員会、理事会の議事一覧

(1) 評議員会

- ◇ 平成 26 年度 定時評議員会（平成 26 年 6 月 27 日）
 - 第 1 号議案 平成 25 年度事業報告書（案）の件
 - 第 2 号議案 平成 25 年度決算報告書（案）の件
 - 第 3 号議案 平成 25 年度公益目的支出計画実施報告書の件
 - 第 4 号議案 平成 26 年度事業計画書の件
 - 第 5 号議案 平成 26 年度収支予算書の件
 - 第 6 号議案 役員等報酬（案）の件
 - 第 7 号議案 規程の改定の件
 - 第 8 号議案 評議員選任の件
 - 第 9 号議案 役員選任の件

(2) 理事会

- ◇ 平成 26 年度第 1 回理事会（通常）（平成 26 年 6 月 6 日）
 - 第 1 号議案 平成 25 年度事業報告書（案）の件
 - 第 2 号議案 平成 25 年度決算報告書（案）の件
 - 第 3 号議案 平成 25 年度公益目的支出計画実施報告書（案）の件
 - 第 4 号議案 役員報酬（案）の件
 - 第 5 号議案 規程の改定の件
 - 第 6 号議案 評議員候補者の推薦の件
 - 第 6 号議案 役員候補者の推薦の件
 - 第 7 号議案 平成 26 年度定時評議員会開催及び議題の件

- ◇ 平成 26 年度第 2 回理事会（臨時）（平成 26 年 6 月 30 日）
 - 第 1 号議案 代表理事及び業務執行理事の選定の件
 - 第 2 号議案 理事長、副理事長、研究所長、専務理事、常務理事、執行理事の選定の件
 - 第 3 号議案 顧問委嘱の件
 - 第 4 号議案 認証センター運営委員会の委員交替の件

- ◇ 平成 26 年度第 3 回理事会（通常）（平成 27 年 3 月 16 日）
 - 第 1 号議案 平成 26 年度運営状況の報告
 - 第 2 号議案 平成 27 年度事業計画書（案）の件
 - 第 3 号議案 平成 27 年度収支予算書（案）の件
 - 第 4 号議案 認証センター上級経営管理者の交替の件
 - 第 5 号議案 認証センター運営委員会の委員交替の件

2.1 平成 26 年度研究事業一覧

課題数の総計：414

○実施事業（公益的な事業） 課題数：96

事業内容	研究分野	主な研究課題
基礎研究	環境・エネルギー (14 課題)	使用過程触媒の劣化性能予測モデルの基礎検討 路面テクスチャの測定方法に関する検討 モータ・インバータ評価解析技術向上 実使用環境下におけるエネルギー関連材料の構造解析技術の開発
	安全 (16 課題)	神経筋制御(Neuromuscular Control)を考慮した筋モデルを用いた身体挙動の予測技術に関する研究 後突時における女性の頸部傷害低減に関する研究 ドライブレコーダに記載される事故・ニアミスイベントの自動判別技術の開発 JARI-ARV を用いた交通事故発生メカニズムの解明に関する研究
	IT・通信 (5 課題)	ITS 産業動向に関する調査研究 IT・CE 技術の ITS への適用に関する研究
総合研究	環境・エネルギー (27 課題)	小型排出ガス試験法(WLTP)フェーズ1 試験法検証(ラウンドロビン試験)に関する調査 PEMS 国内導入に関する実態把握と課題検討事業 重量車の実走行データに基づく変速ロジックに関する調査 圧縮天然ガス(CNG)車普及に向けたインフラ構築を含む持続可能な環境整備・実証事業(インドネシア) 平成26年度新興国市場開拓事業(技術実証を通じた相手国での新技術等の普及促進事業(サウジアラビア:乗用車燃費規制認証に係る実証事業)) セル評価解析の共通基盤技術 自動車用圧縮水素容器の基準整備・国際基準調和に関する研究開発 車載蓄電池・電動車両等に関する国際標準化および試験法の研究開発 車載蓄電池の性能評価手法の技術開発
	安全 (27 課題)	平成26年度自動車アセスメント情報提供業務に係る安全性能比較試験等 交通事故鑑識官養成委託研修 平成26年度超小型モビリティの安全性に係る調査 平成26年度自動車安全対策のマネジメントサイクルの推進に係る調査 車両安全に資するための医工連携による交通事故の詳細調査分析 前面構造部材高さの評価法に関する研究 車両駆動用バッテリーシステムの安全性評価試験法に関する調査 燃料電池二輪自動車の車両安全性に関する調査 平成26年度「ロボット介護機器開発・導入促進事業(基準策定・評価事業)」
	IT・通信 (7 課題)	平成26年度省エネルギー等国際標準共同研究開発・普及基盤構築事業:自動走行システムの基礎的要素技術に関する国際標準化・普及基盤構築 平成26年度グリーン自動車技術調査研究事業(安全・快適で環境負荷の少ない道路交通の実現に資する ITS の実用化調査) 平成26年度次世代高度運転支援システム研究開発・実証プロジェクト 平成26年度戦略的イノベーション創造プログラム(自動走行システム):全天候型白線識別技術の開発及び実証 平成26年度戦略的イノベーション創造プログラム(自動走行システム):「走行映像データベース」の構築技術の開発及び実証

○その他事業（公益的な事業を除く全ての事業） 課題数：318

事業内容	研究分野	主な研究課題	課題数
研究・試験	環境・エネルギー (120 課題)	大気環境、地球温暖化に関する研究・試験	43
		超クリーンディーゼル、NOx 低減、新燃料に関する研究・試験	13
		未規制物質に関する研究・試験	4
		排気ガスの健康影響に関する研究・試験	5
		EV、HEV、FCV に関する研究・試験	45
		道路交通騒音に関する研究・試験	9
		社会経済・アジア政策に関する調査・研究、その他	1
	安全 (180 課題)	乗員保護、歩行者保護に関する研究・試験	95
		交通事故分析、交通事故発生メカニズムに関する研究・試験	2
		材料/構造分析に関する研究・試験	21
		運転者特性/ヒューマンインターフェースに関する研究・試験	10
		予防安全装置に関する研究・試験	12
		自動車運動性能に関する研究・試験	34
		高齢者対応に関する研究・試験	3
	ロボットの安全性に関する研究・試験、その他	3	
IT・通信 (18 課題)	運転支援/自動運転システムに関する研究・試験	3	
	電気/電子・機能安全規格 ISO26262 に関する調査・研修	13	
	EMC に関する研究・試験	2	

2.2 平成 26 年度所外発表論文等一覧

※主発表者が JARI 職員の発表のみ

(1) 論文(11 件)

題名	発表先	発表者名
<国際発表> [燃料電池／電気自動車／ハイブリッド車分野]		
Comparison of fires in lithium-ion battery vehicles and gasoline vehicles	2014 年 5 月 SAE International Journal of Passenger Cars - Electronic and Electrical Systems	高橋昌志・竹内正幸・前田清隆・中川翔馬
Effectiveness of a blower in reducing the hazard of hydrogen leaking from a hydrogen-fuelled vehicle	2014 年 5 月 International Journal of Hydrogen Energy	田村陽介・竹内正幸(JARI), 佐藤研二(東邦大学)
Validation of the localized fire test method for on-board hydrogen storage system	2014 年 9 月 SAE International Journal of Passenger Car	田村陽介・竹内正幸・前田清隆・大塚宣明(JARI), 佐藤研二(東邦大学)
<国内発表> [燃料電池／電気自動車／ハイブリッド車分野]		
自動車用リチウムイオン電池パックの振動試験法の妥当性検証	2015 年 1 月 自動車技術会論文集	前田清隆・高橋昌志
[予防安全分野]		
高齢運転者の実運転場面に基づく一時停止規制のある無信号交差点での不安全行動分析	2014 年 5 月 自動車技術会論文集	細川崇・橋本博(JARI), 平松真知子・吉田傑(日本自動車工業会)
交差点右折時の対向直進車のない状況における運転行動と対向直進車接近時の回避行動との関係	2014 年 11 月 自動車技術会論文集	安部原也・田川傑・内田信行(JARI), 平松真知子・寸田剛司(日本自動車工業会)
歩行者事故防止のための運転時注意分散の影響評価	2015 年 3 月 自動車技術会論文集	安部原也・佐藤健治・内田信行(JARI), 福島正夫(日本自動車工業会)
[衝突安全分野]		
高齢者モデルを用いた前突スレッド解析による乗員挙動と胸部応答に関する研究	2015 年 1 月 自動車技術会論文集	山本義洋・アントナハコボ・佐藤房子・加藤良祐・江島晋(JARI), 独古泰裕・安木剛(日本自動車工業会)
肝臓有限要素モデルを用いた灌流肝臓の動的圧縮条件下における損傷シミュレーション	2015 年 1 月 自動車技術会論文集	佐藤房子・山本義洋・高山晋一・江島晋(JARI), 独古泰裕・安木剛(日本自動車工業会)
シミュレーションによる歩行者事故の解析 -SUV 型車両における車両の衝突速度と歩行者の飛翔距離の関係	2015 年 1 月 日本交通科学学会誌	福山慶介・山崎邦夫
コンピュータシミュレーション解析手法を用いた自転車乗員頭部の自動車ならびに路面に対する衝突状況解析	2015 年 3 月 自動車技術会論文集	面田雄一・鴻巣敦宏

(2) 学術講演(69件)

題名	発表先	発表者名
<国際発表> [環境・エネルギー分野]		
A cylindrical counter flow denuder and application of an aerosol mass spectrometry	2014年8月 2014 International Aerosol Conference (IAC2014)	萩野浩之
Effect of road surfaces on road traffic noise on the public roads of Japan - An investigation based on tyre/road noise measurement -	2014年11月 43rd International Congress on Noise Control Engineering (inter.noise 2014)	小池博・伊藤晃佳
[燃料電池／電気自動車／ハイブリッド車分野]		
Comparison of fires in lithium-ion batteries and gasoline vehicles	2014年4月 SAE 2014 World Congress	高橋昌志・竹内正幸・前田清隆・中川翔馬
Validity evaluation of localized fire test for a specific vehicle installation	2014年4月 SAE 2014 World Congress	田村陽介・前田清隆・大塚宣明・竹内正幸
Evaluation of energy consumption of electric vehicles based on actual measurement in practical use	2014年5月 EVTeC & APE Japan 2014	森田賢治・前田安正・黒川陽弘・鈴木徹也・今村大地
Evaluation of test procedures for the post-crash concentration measurement of vehicles with a hydrogen storage system	2014年6月 20th World Hydrogen Energy Conference 2014 (WHEC2014)	田村陽介・大塚宣明・竹内正幸
A rational scrapping method for automotive compressed hydrogen cylinders - Safety evaluation for omitted the evacuation progress of work -	2014年6月 20th World Hydrogen Energy Conference 2014 (WHEC2014)	山崎浩嗣・田村陽介・竹内正幸
Comparison of test results on load cycle durability of PEFC cathode catalysts	2014年6月 20th World Hydrogen Energy Conference 2014 (WHEC2014)	橋正好行・沼田智昭・清水貴弘
Comparison of carbon corrosion test methods for polymer electrolyte fuel cell	2014年8月 65th Annual Meeting of the International Society of Electrochemistry	橋正好行・松田佳之・清水貴弘
In situ TEM observation of Pt/C in reactant gases of the polymer electrolyte fuel cell	2014年9月 18th International Microscopy Congress	清水貴弘・今村大地(JARI), 矢口紀恵(日立ハイテクノロジーズ), 上野武夫(山梨大学燃料電池ナノ材料研究センター)
Thermotolerance of automotive CFRP cylinders in case of fire and their handling method after fire	2014年10月 The 3rd Conference on Fire in vehicles (FIVE2014)	田村陽介・竹内正幸
A rational scrapping method for automotive compressed hydrogen cylinders	2014年10月 The 3rd Conference on Fire in vehicles (FIVE2014)	山崎浩嗣・竹内正幸・田村陽介
Cycle life evaluation of lithium-ion batteries for electric vehicles at 45°C using IEC and QC/T standard test methods	2014年10月 226th Meeting of The Electrochemical Society (226th ECS Meeting)	今村大地・明神正雄・松田智行
Adsorption behavior of carbon monoxide at low concentration on the polymer electrolyte fuel cell	2014年10月 226th Meeting of The Electrochemical Society (226th ECS Meeting)	松田佳之・中村慎二郎・鶴見直美・清水貴弘

Degradation analyses of commercial lithium-ion cells by C-rate/temperature controlled cycle test	2014年10月 226th Meeting of The Electrochemical Society (226th ECS Meeting)	松田智行・明神正雄・今村大地
[予防安全分野]		
Study on assessment method using tracking task as subsidiary probe task to estimate the demand of operating an in-vehicle information device	2014年9月 Human Factors and Ergonomics Society Europe Chapter 2014 Annual Meeting	宇野宏(JARI), 中村之信(日本自動車工業会)
Evaluation of forward-vehicle collision-avoidance systems - How drivers respond to warnings of unexpected hazardous situations -	2014年9月 12th International Symposium on Advanced Vehicle Control	本間亮平・菊地一範・若杉貴志(JARI), 田坂寿康・吉田傑(日本自動車工業会)
Simulation of traffic accident scenarios with an Augmented Reality Vehicle	2014年12月 21st International Display Workshop	内田信行・田川傑・佐藤健治
<国内発表> [環境・エネルギー分野]		
飛行時間型エアロゾル質量分析計を用いたフィルタに採取した水溶性/非水溶性有機エアロゾルの分析	2014年8月 第31回エアロゾル科学・技術研究討論会	萩野浩之
曝露評価に用いるための自動車排出ガス濃度の推計 (3)拡散推計の詳細化	2014年9月 第55回大気環境学会年会	富田幸佳・森川多津子
2010年度におけるPM2.5濃度のシミュレーションと発生源感度解析	2014年9月 第55回大気環境学会年会	森川多津子(JARI), 中塚誠次(NTTデータ CCS), 木村真(JARI)
大気汚染物質, 騒音と虚血性心疾患の関連性に関する疫学調査(進捗状況)	2014年9月 第55回大気環境学会年会	堺温哉・伊藤剛・古根村綾乃・森川多津子・小池博・富田幸佳・伊藤晃佳(JARI), 岸川洋紀(武庫川女子大学), 中井里史(横浜国立大学), 小野雅司(国立環境研究所), 東賢一(近畿大学), 内山巖雄(京都大学)
マウス肺の網羅的遺伝子発現プロファイルによるディーゼル排気粒子応答パスウェイの解析	2014年9月 第55回大気環境学会年会	細谷純一・伊藤剛
大気粒子抽出物の酸化活性における金属成分の寄与の検討	2014年9月 第55回大気環境学会年会	古根村綾乃(JARI), 阿久津康生(ジェー・エー・シー), 伊藤剛・堺温哉・森川多津子・萩野浩之(JARI)
ディーゼル排気曝露マウス海馬における薬物代謝酵素, 酸化ストレスおよび学習・記憶に係わる遺伝子発現の関連性の解析	2014年9月 第55回大気環境学会年会	伊藤剛・細谷純一・古根村綾乃・田村久美子(JARI), 小林隆弘(物質・材料研究機構)
in vitro 細胞曝露装置における細胞培養条件の検討	2014年9月 第55回大気環境学会年会	田中睦美・佐々木左宇介・田村久美子(JARI), 岡村和政(トヨタ自動車), 伊藤剛(JARI)
ブレーキ摩耗粉塵の排出計測と化学性状に関する研究	2014年9月 第55回大気環境学会年会	萩野浩之・伊藤剛(JARI), 阿久津康生(ジェー・エー・シー), 佐々木左宇介(JARI)
高流量フロー型光化学スモッグチャンバーの設計と評価	2014年9月 第55回大気環境学会年会	萩野浩之・細谷純一・伊藤剛(JARI), 坂本和彦(埼玉県環境科学国際センター), 伊藤晃佳(JARI)
粒子液化捕集装置による活性酸素種の直接・連続測定の実行	2014年9月 第55回大気環境学会年会	萩野浩之・森川多津子・伊藤剛・伊藤晃佳
大気粉塵標準粒子 SRM1649 を用いたレボグルコサン抽出方法の比較	2014年9月 第55回大気環境学会年会	柏倉桐子

[燃料電池／電気自動車／ハイブリッド車分野]		
自動車用リチウムイオン電池パックの振動試験法の妥当性検証	2014年5月 自動車技術会 2014年春季大会	前田清隆・高橋昌志
固体高分子形燃料電池の反応ガス雰囲気におけるPt/Cのその場観察	2014年5月 日本顕微鏡学会第70回学術講演会	清水貴弘・今村大地, 矢口紀恵(日立ハイテクノロジーズ), 上野武夫(山梨大学燃料電池ナノ材料研究センター)
水素漏洩を伴う水素燃料自動車への送風による有効性	2014年9月 平成26年度日本火災学会研究発表会	田村陽介・山崎浩嗣
長期サイクル試験によるリチウムイオン電池電極の劣化機構	2014年9月 2014年電気化学秋季大会	松田智行・今村大地・明神正雄(JARI), 松本匡史・真田貴志・今井英人(日産アーク)
水素・窒素・酸素雰囲気におけるPt/C触媒劣化過程の高温その場観察	2014年9月 2014年電気化学秋季大会	清水貴弘・今村大地(JARI), 矢口紀恵(日立ハイテクノロジーズ), 上野武夫(山梨大学燃料電池ナノ材料研究センター)
電気自動車における電力消費量への影響要因の検討	2014年10月 自動車技術会 2014年秋季大会	金成修一・林誠司・平井洋(JARI), 光安皓(パシフィックコンサルタンツ), 大口敬(東京大学生産技術研究所)
圧縮水素容器のくず化処理工程の合理化に関する研究－真空引き工程の省略化の検討－	2014年10月 自動車技術会 2014年秋季大会	山崎浩嗣・竹内正幸・田村陽介
水素漏洩を伴う車両への被害軽減対策としての送風の有効性	2014年10月 自動車技術会 2014年秋季大会	田村陽介・山崎浩嗣(JARI), 佐藤研二(東邦大学)
水素充填時のノズル・レセプタクル氷結試験	2014年10月 自動車技術会 2014年秋季大会	開渉・三石洋之
大規模なデータ収集に基づく電気自動車の電池性能評価	2014年10月 自動車技術会 2014年秋季大会	前田安正・黒川陽弘・森田賢治・今村大地
標準寿命試験法のサイクル試験プロファイルが電動車両用リチウムイオン電池の性能変化に及ぼす影響	2014年10月 自動車技術会 2014年秋季大会	明神正雄・松田智行・今村大地
高速充放電サイクル試験による市販リチウムイオン電池の劣化挙動	2014年11月 第55回電池討論会	松田智行・明神正雄・安藤慧佑・今村大地
電解質膜の湿度サイクル耐久性に及ぼす試験条件の影響	2014年11月 第55回電池討論会	橋正好行・吉村昇・沼田智昭
SPES膜を用いて作製したMEAの初期発電性能と湿度サイクル耐久性	2014年11月 第55回電池討論会	橋正好行・松田佳之・清水貴弘・大徳浩志・北園智美
走行データ解析とセル寿命試験による電気自動車用リチウムイオン電池の寿命試験法の検討	2014年11月 第55回電池討論会	今村大地・明神正雄・松田智行・黒川陽弘・前田安正
硬X線光電子分光による充放電サイクルしたカーボン負極のSEI挙動解析	2014年11月 第55回電池討論会	松本匡史・上口憲陽・真田貴志・高尾直樹・今井英人(日産アーク), 松田智行, 今村大地(JARI)
Ex situ TEM法によるPt/C触媒劣化過程解析技術の開発	2015年3月 電気化学会第82回大会	清水貴弘・今村大地(JARI), 上野武夫(山梨大学燃料電池ナノ材料研究センター)
dV/dQ曲線解析による混合系正極リチウムイオン電池の非破壊劣化診断	2015年3月 電気化学会第82回大会	安藤慧佑・松田智行・明神正雄・今村大地
[予防安全分野]		
ペダルトラッキングを副次作業とした二重課題法による情報機器タスクの影響評価方法に関する検討	2014年10月 自動車技術会 2014年秋季大会	宇野宏(JARI), 中村之信(日本自動車工業会)

走行中の注意分散, 視界阻害による視覚行動および事故リスクへの影響	2014年10月 自動車技術会 2014年秋季大会	安部原也・佐藤健治・内田信行 (JARI), 福島正夫(日本自動車工業会)
自転車との出会い頭事故シナリオ再現実験に基づく運転者要因分析及支援方策に関する研究	2014年10月 自動車技術会 2014年秋季大会	内田信行・岩城亮・佐藤健治・田川傑 (JARI), 田中勇彦(日本自動車工業会)
視野障害を伴う眼疾患(緑内障)による運転への影響	2014年10月 自動車技術会 2014年秋季大会	佐藤健治・安部原也・内田信行 (JARI), 植田俊彦(二本松眼科病院), 鈴木弘隆(すずむら眼科)
インフラ協調安全運転支援システムの受容性を促進する表示インターフェイス(第2報) - 情報提供に伴う煩わしさを低減するための視聴覚表示 -	2014年10月 自動車技術会 2014年秋季大会	大谷亮・江上嘉典・岩城亮(JARI), 中 村之信(日本自動車工業会)
実車両を用いた危険場面再現手法の研究(第2報) 交差点右折場面における運転操作及び車両挙動の検討	2014年10月 自動車技術会 2014年秋季大会	田川傑・佐藤健治・内田信行(JARI), 小竹元基(東京大学)
横断歩行者に対するドライバの行動分析	2014年10月 自動車技術会 2014年秋季大会	岩城亮・若杉貴志・内田信行(JARI), モラレス寺岡エドガル芳男・田中信(トヨタ自動車)
交通安全の学習状況下における低学年児童の横断行動(1) - 学習前の確認行動の特徴 -	2014年6月 日本交通心理学会第79回大会	大谷亮・岡田和未・橋本博・小林隆・藤 田和男・岡野玲子
子どもを対象にした道路交通事故対策 - 人間工学的対策と教育的介入の調和を目指して -	2014年6月 日本人間工学会第55回大会	大谷亮
ドライビングシミュレータを用いた緑内障による運転影響の定量的把握に関する研究	2014年12月 第56回日本産業・労働・交通眼 科学会	佐藤健治・安部原也・内田信行 (JARI), 植田俊彦(二本松眼科), 鈴木 弘隆(すずむら眼科)
交通事故リスク場面における緑内障運転者の対応行動 - 拡張現実(AR) 実験車両を用いた予備的検討 -	2014年12月 第56回日本産業・労働・交通眼 科学会	内田信行・佐藤健治・安部原也 (JARI), 植田俊彦(二本松眼科), 鈴木 弘隆(すずむら眼科)
[衝突安全分野]		
Influence of age-specific parameters on the thoracic response under controlled belt loading conditions	2014年5月 自動車技術会 2014年春季大会	アントナハコボ・山本義洋・加藤良祐・ 佐藤房子・江島晋(JARI), 独古泰裕・ 安木剛(日本自動車工業会)
頸部傷害低減のための後面衝突試験方法の検討 - ダミーの着座姿勢, ならびにシートの設定方法の検討 -	2014年5月 自動車技術会 2014年春季大会	中嶋太一・山崎邦夫・小野古志郎 (JARI), 加藤和彦・角谷佳治(日本自 動車工業会)
高齢者モデルを用いた前突スレッド解析による乗員挙動と胸部応答に関する研究	2014年5月 自動車技術会 2014年春季大会	山本義洋・アントナハコボ・佐藤房子・ 加藤良祐・江島晋(JARI), 独古泰裕・ 安木剛(日本自動車工業会)
コンピュータシミュレーション解析手法を用いた自転車乗員頭部の自動車ならびに路面に対する衝突状況解析	2014年10月 自動車技術会 2014年秋季大会	面田雄一・鴻巣敦宏
モーフォロジー 解析による人体胸郭構造のモデル化手法に関する研究	2014年6月 第19回計算工学講演会	江島晋・加藤良祐・三上耕司・高山晋 一・小野古志郎(JARI), 塩谷清司(筑 波メディカルセンター), 早川秀幸(筑波 解剖検センター)
日本外傷データバンクを活用した事故自動通報システムの効果予測	2014年6月 第50回日本交通科学学会総会・ 学術講演会	高山晋一・小野古志郎(JARI), 佐藤 泉・木内透(日本自動車工業会), 齋藤 大蔵(防衛医科大学校), 坂本哲也(帝 京大学)
着座姿勢における脊柱アライメントの計測 - 縦型オープン MR 装置による計測 -	2014年6月 第50回日本交通科学学会総会・ 学術講演会	佐藤房子・小野古志郎・中嶋太一 (JARI), 森川茂廣(滋賀医科大学)

高速域での衝突における乗用車前面のエネルギー吸収特性	2014年6月 第50回日本交通科学学会総会・ 学術講演会	福山慶介・鮎川佳弘・面田雄一 (JARI), 田久保宣晃・大賀涼(警察庁 科学警察研究所)
日本外傷データベースを活用した事故自動通報システムの死者数削減効果予測	2014年10月 自動車技術会 2014年秋季大会	高山晋一・小野古志郎(JARI), 佐藤泉 (日本自動車工業会), 齋藤大蔵(防衛 医科大学校), 坂本哲也(帝京大学)
後面衝突用ダミー (BioRID-II) のための再現性向上に関する研究	2014年10月 自動車技術会 2014年秋季大会	中嶋太一・江島晋・小野古志郎 (JARI), 加藤和彦・角谷佳治(日本自 動車工業会)

(3) その他の発表(40件)

題名	発表先	発表者名
<国際発表> [環境・エネルギー分野]		
Japanese emission inventory for air quality modeling and its application	2014年10月 第7回日中韓石油技術会議	森川多津子
Emission inventory in Japan	2015年3月 The Workshop for Air Quality Management and Emissions Inventory	森川多津子
<国内発表> [環境・エネルギー分野]		
アクロレインのDNPH誘導体化反応:何故アクロレインがなくなってしまうとどうすれば解決可能か	2014年5月 第330回 ガスクロマトグラフィー研究会講演会	秋山賢一
PM2.5のシミュレーション	2014年5月 自動車技術会 2014年春季大会 フォーラム	森川多津子
最近の大気環境の動向	2014年6月 自動車技術会 第2回ディーゼル機関部門委員会	伊藤晃佳
高効率低公害自動車の Well to Wheel 評価	2014年7月 自動車技術会誌「自動車技術」	鈴木徹也
PM2.5濃度予測のための大気質モデル研究－JATOP 排出インベントリー	2014年7月 平成26年度石油エネルギー技術センター技術開発・調査事業成果発表会	森川多津子(JARI), 中塚誠次(NTTデータ CCS)
マスマスペクトル解析の基礎	2014年8月 第20回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会	秋山賢一
ガスクロ初級講座「GC,GC/MS など分析機器導入時の注意点」	2014年8月 JAIMA コンファレンス	秋山賢一
大気環境影響評価とわが国の排出量インベントリー開発	2014年11月 日本マリンエンジニアリング学会誌	森川多津子
GC/IRMSによる酒や燃料中エタノールの炭素と酸素安定同位体比測定による原料植物の分類	2014年12月 第334回 ガスクロマトグラフィー研究会特別講演会	秋山賢一

車載式排出ガス分析計(PEMS)を用いた排出ガス評価法の動向と JARI の取り組み	2015 年 2 月 自動車技術会 第 6 回排気触媒システム部門委員会	相馬誠一
[燃料電池／電気自動車／ハイブリッド車分野]		
燃料電池自動車の燃費計測手法	2014 年 7 月 自動車技術会誌「自動車技術」	黒田英二・矢野勝(JARI), 佐々木正史(北見工大)
電気自動車(ISO/TC22/SC21)に係る国際標準化の動向	2014 年 7 月 自動車技術会誌「自動車技術」	吉原三智子
燃料電池における水素中不純物の影響	2014 年 7 月 電気化学会 第 124 回燃料電池研究会セミナー	松田佳之・清水貴弘・今村大地・橋正好行
ハイブリッド車・電気自動車・燃料電池車	2014 年 8 月 自動車技術会誌「自動車技術」	島村和樹・桑田雅敏・清水貴弘
「研究室リレー」一般財団法人日本自動車研究所／水素・燃料電池自動車安全性評価試験設備	2014 年 10 月 日本火災学会誌「火災」	田村陽介
水素燃料中の不純物の影響評価	2014 年 11 月 自動車技術会 燃料電池部門委員会	松田佳之・清水貴弘・今村大地・橋正好行
水素を利用した燃料電池自動車の火災安全性	2014 年 12 月 安全工学会誌「安全工学」	田村陽介
日本自動車研究所における電動車両に係わる標準化活動	2015 年 2 月 自動車技術会誌「自動車技術」	森田賢治
電解質膜の湿度サイクル耐久性に及ぼす試験条件の影響と SPES 膜の評価	2015 年 2 月 燃料電池・FCH 部会 第 228 回定例研究会	橋正好行
電気および燃料電池自動車の開発動向と標準化活動	2015 年 2 月 アドバンスト・バッテリー技術研究会 第 151 回定例研究会	森田賢治
[予防安全分野]		
複数の情報を伝達する際の車室内表示インターフェイスの考え方 ―インフラ協調安全運転支援システムを対象にした検討―	2014 年 4 月 自動車技術会誌「自動車技術」	大谷亮・江上嘉典・岩城亮(JARI), 中村之信(日本自動車工業会)
「通学中の交通事故を防ぐために」 夢の自動車と子どもの安全教育(1) ―通学時の事故防止のために―	2014 年 7 月 少年写真新聞社「安全教育ニュース」7 月号	大谷亮
「通学中の交通事故を防ぐために」 夢の自動車と子どもの安全教育(2) ―将来の交通社会人を育てましょう―	2014 年 8 月 少年写真新聞社「安全教育ニュース」8 月号	大谷亮
「通学中の交通事故を防ぐために」 子どもが教師役を演じることを通して(1) 交通事故防止のために	2014 年 11 月 少年写真新聞社「安全教育ニュース」11 月号	大谷亮
「通学中の交通事故を防ぐために」 子どもが教師役を演じることを通して(2) 他者の気持ちを考えるために	2014 年 12 月 少年写真新聞社「安全教育ニュース」12 月号	大谷亮
「通学中の交通事故を防ぐために」 「止まる・見る・確かめる」(1)	2015 年 1 月 少年写真新聞社「安全教育ニュース」12 月号	大谷亮
「通学中の交通事故を防ぐために」 子どもが考える正しい横断(1)	2015 年 3 月 少年写真新聞社「安全教育ニュース」12 月号	大谷亮

[衝突安全分野]		
ブリクラッシュセーフティ装置の評価を目的としたブリクラッシュ台車の開発	2014年4月 自動車技術会誌「自動車技術」	鮎川佳弘・伊藤久雄・江島晋
自動車衝突安全試験施設 - JARI 衝突実験設備	2014年5月 日本電設工業協会誌「電設技術」	福平健一
[ITS/機能安全分野]		
自動運転技術の開発動向と実用化に向けた課題	2014年5月 電子情報通信学会 LSI とシステムのワークショップ 2014	青木啓二
つながる自動車と関連標準化・セキュリティ	2014年7月 テレコムサービス協会セミナー	伊藤寛
自動運転に期待されるセンシング技術について	2014年8月 日経 BP Automotive Technology Forum 2014 Summer	青木啓二
自動運転システムに求められる要素技術と開発動向	2014年9月 自動車技術会関東支部 第4回講演会	青木啓二
自動運転技術と取組みの概要	2015年1月 九州先端科学技術研究所(ISIT) 第16回カーエレクトロニクス研究会	谷川浩
自動走行研究実証事業と JARI の取組み	2015年2月 自動車技術会中部支部 第6回技術講習会	谷川浩
JARI における機能安全活動と自動運転システムの動向	2015年3月 自動車機能安全カンファレンス 2015	永井正夫
ISO 26262 共同研究 WG アセスメント WG 活動報告 ~アセスメント評価シートの作成~	2015年3月 自動車機能安全カンファレンス 2015	深澤竜三
[ロボット分野]		
生活支援ロボット安全検証手法開発成果の実用化 -安全検証センターの設立と国際標準化-	2014年9月 日本ロボット工業会誌「ロボット」	藤川達夫

2.3 平成 26 年度 学会表彰の受賞者一覧

表彰名	受賞者	表彰対象
第 31 回エアロゾル科学・ 技術研究検討会 ベストポスター賞	萩野 浩之	「飛行時間型エアロゾル質量分析計を用いたフィルタに採取した水溶性／非水溶性有機エアロゾルの分析」
第 19 回計算工学講演会 ベストペーパーアワード	江島 晋、加藤 良祐、 三上 耕司、高山 晋一、 小野古志郎、 塩谷 清司(筑波メディカル センター)、早川 秀幸 (筑波剖検センター)	「モーフォロジー 解析による人体 胸郭構造のモデル化手法に関する 研究」
自動車技術会 2013 年度技術部門貢献賞	小野古志郎	インパクトバイオメカニクス部門 委員会の活動に対する貢献
自動車技術会 2013 年度技術部門貢献賞	藤川 達夫	トラフィックセイフティ部門委員 会の活動に対する貢献
自動車技術会 標準化活動功労者表彰	小野古志郎	ISO/TC22/SC10 、 SC12 および SC12/WG7 エキスパートとして標準 化活動に対する貢献

3.1 平成 26 年度テストコース外部利用者使用状況

(単位：千円)

使用区分		実績
利用者の業種別	国内自動車（二輪・四輪）関係	329,472
	海外自動車関係	5,384
	車体関係	25,685
	部品関係	57,112
	タイヤ関係	31,210
	その他	21,994
	合 計	470,857
テストコース別	高速周回路	186,176
	総合試験路	96,859
	その他	187,822
	合 計	470,857

4.1 平成 26 年度技術刊行物一覧

区 分	題 名	発行年月
報告書	ITS 産業動向に関する調査研究報告書 －ITS 産業の最前線と市場予測 2014－	平成 26 年 6 月
年 報	日本自動車研究所 2013 年度 年報	平成 26 年 8 月
年 報	2013 年度 JARI 研究論文集	平成 26 年 8 月
所 報	JARI Research Journal 2014 年 4 月～2015 年 3 月 (研究速報、技術資料など 37 編を JARI ウェブサイトに掲載)	平成 26 年 4 月～ 平成 27 年 3 月

4.2 平成 26 年度蔵書、資料保有状況

区 分	取得件数	累 計
単行本 (和書)	341 冊	13,014 冊
単行本 (洋書)	28 冊	2,255 冊
国内雑誌	24 誌	—
外国雑誌	4 誌	—
報告書等	259 点	31,024 点

4.3 平成 26 年度主要な研究設備、機器の導入、更新一覧

件名	主な内容
乗用車用エンジンベンチシステム	乗用車用エンジンの過渡運転試験等に使用する。 主な導入設備・機器： <ul style="list-style-type: none"> ・ 370kW 動力計 (iG370) および操作計測盤 ・ 吸入空気温調装置 ・ 定容量サンプリング装置 (CVS-ONE) ・ 希釈／直接排ガス分析計 (MEXA-ONE) ・ 直接排ガス分析計 (MEXA-7100D)
運転操作ロボット	被害軽減ブレーキの評価試験等に使用する。 主な導入設備・機器： <ul style="list-style-type: none"> ・ ステアリングロボット (SR15TD-Omni) ・ 統合ペダルロボット (CBAR)

4.4 平成 26 年度主要な工事等整備一覧

件名	主な内容
エンジンベンチ付帯工事	工事内容：建築付帯工事（間仕切り工事、燃料供給設備工事、空調・給排気設備工事）、電気工事（高圧受変電所設置）
高圧ケーブル更新3期工事	工事内容：老朽化した高圧ケーブルの更新 更新範囲：4号エンジン研究棟保安電源（防災用電源）
小型シャシダイナモ実験室空調設備更新（能力増強）工事	工事場所：エンジン研究棟小型シャシダイナモ室 工事内容：既存の試験室環境条件構築用空調機を R83 や WLTP 試験法に対応する試験環境を構築できる能力の空調機に更新
EV・電池研究棟電源容量増強工事	工事場所：EV・電池研究棟 工事内容：仮設で電源を供給していた建物に専用の高圧受変電設備を設置
7号宿舎解体処分	工事内容：建物解体処分（鉄筋コンクリート2階建、延べ面積 1,688 m ² ）

参考：平成 26 年度正味財産増減計算書（予算決算比較表）

平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
1. 一般正味財産増減の部			
(1) 経常増減の部			
1) 経常収益			
①基本財産運用益	22,850,000	22,736,245	113,755
②特定資産運用益	59,570,000	72,180,028	△ 12,610,028
③受取賛助員会費	99,370,000	93,791,500	5,578,500
④事業収益	6,273,300,000	7,815,356,816	△ 1,542,056,816
・研究事業収益	5,031,560,000	6,653,428,035	△ 1,621,868,035
・施設貸出事業収益	589,190,000	505,541,799	83,648,201
・認証事業収益	435,690,000	437,246,908	△ 1,556,908
・J N X 事業収益	216,860,000	219,140,074	△ 2,280,074
⑤受取補助金	337,720,000	323,043,348	14,676,652
・受取補助金	256,870,000	242,161,917	14,708,083
・受取補助金振替額	80,850,000	80,881,431	△ 31,431
⑥受取負担金	28,540,000	19,444,447	9,095,553
⑦雑収益	185,260,000	145,078,268	40,181,732
経常収益計	7,006,610,000	8,491,630,652	△ 1,485,020,652
2) 経常費用			
①事業費	7,482,750,000	8,559,580,221	△ 1,076,830,221
・研究事業直接経費	1,423,710,000	2,701,520,691	△ 1,277,810,691
・事業人件費	2,964,010,000	2,840,062,333	123,947,667
・事業経費	1,603,070,000	1,554,092,620	48,977,380
・事業減価償却費	1,411,110,000	1,350,189,546	60,920,454
・補助事業減価償却費	80,850,000	80,881,431	△ 31,431
・事業除却費	0	32,833,600	△ 32,833,600
②管理費	513,680,000	574,975,295	△ 61,295,295
・人件費	134,830,000	129,585,460	5,244,540
・経費	352,650,000	333,957,413	18,692,587
・減価償却費	21,200,000	21,077,143	122,857
・除却費	5,000,000	90,355,279	△ 85,355,279
経常費用計	7,996,430,000	9,134,555,516	△ 1,138,125,516
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 989,820,000	△ 642,924,864	△ 346,895,136
・特定資産評価損益等	0	326,491,200	△ 326,491,200
評価損益等計	0	326,491,200	△ 326,491,200
当期経常増減額	△ 989,820,000	△ 316,433,664	△ 673,386,336
(2) 経常外増減の部			
1) 経常外収益			
①土地売却益	866,160,000	0	866,160,000
②預り資産受贈益	0	1,849,731	△ 1,849,731
経常外収益計	866,160,000	1,849,731	864,310,269
当期経常外増減額	866,160,000	1,849,731	864,310,269
税引前当期一般正味財産増減額	△ 123,660,000	△ 314,583,933	190,923,933
法人税、住民税及び事業税	190,000	192,000	△ 2,000
当期一般正味財産増減額	△ 123,850,000	△ 314,775,933	190,925,933
一般正味財産期首残高	18,894,120,444	18,894,120,444	0
一般正味財産期末残高	18,770,270,444	18,579,344,511	190,925,933
2. 指定正味財産増減の部			
①受取補助金	0	800,000	△ 800,000
②一般正味財産への振替額	△ 80,850,000	△ 80,881,431	31,431
当期指定正味財産増減額	△ 80,850,000	△ 80,081,431	△ 768,569
指定正味財産期首残高	173,204,271	173,204,271	0
指定正味財産期末残高	92,354,271	93,122,840	△ 768,569
3. 正味財産期末残高	18,862,624,715	18,672,467,351	190,157,364